

函南町立西小学校 三島ジオ学習

(文責 函南町立西小学校 關野 真理)

本校5年生の総合的な学習の時間のテーマの1つが、「自然とともに～ジオパークを知ろう・楽しもう」です。毎年1学期に30時間ほどの学習を行っています。例年は、地元函南と自然教室で行う長泉のみのフィールドワークでしたが、今年度は、新たに三島も加え、隣町三島市と函南町の違いや似ているところ、長泉町と三島市の似ているところなどにも着目して、ジオ学習を行うことにしました。そこで、ジオパーク推進部のみなさんをお願いし、7月5日(火)に5年生83人が6名のジオガイドの方に教えていただきながら、三島を3時間かけてフィールドワークすることが実現しました。

フィールドワークでは、楽寿園の小浜池や縄状溶岩、溶岩塚、源兵衛川、三島大社、白滝公園を巡る三島ジオツアーを6グループに分かれて行いました。2年生で訪れたことのある楽寿園でしたが、全く違う視点で富士山の湧水や溶岩について学習できました。三島市が市民と企業とともに美しい源兵衛川を守るため、継続的に清掃活動などをし、世界水遺産と灌漑施設遺産かんがいに登録されていることも知りました。雨の中、実際に源兵衛川に入った子供たちは、水の冷たさと美しさに大はしゃぎし、体感を通して学ぶことができました。

今回のフィールドワークを通して、富士山の溶岩や湧水に興味をもった子供が多くいました。その後の休日に家族で訪れる子供たちも多数いました。また、翌日に長泉ジオ学習を行ったことで、つながりのある学習が展開できました。貴重な学びの場をいただけたジオパーク推進部や6名のジオガイドの方に感謝申し上げます。



伊豆市立修善寺中学校 グローカルタイム

～SDGs11「持続可能なまちづくり」に向けて～

(文責 伊豆市立修善寺中学校 西原 隆博)

本校では、3年間をかけて「持続可能なまちづくり」を主な目的として、総合的な学習の時間(グローバルタイム)に取り組んでいます。その導入として、1年生では5月にジオリアを訪問し、その後、市内のジオサイト訪問を行います。本年度は、船原スコリア丘、滑沢渓谷・太郎杉を見に行きました。6人のジオガイドさんの丁寧な説明を受けながらの各場所での学習は素晴らしく、生徒たちは一生懸命にメモを取り、その風景を満喫することができました。船原スコリア丘では、火山の見事な内部構造を観察し、黒曜石探しに夢中になっていました。滑沢渓谷では、美しい滑沢ブルーの水に見とれ、こんもりとした木々がまるでジブリの世界のようだ、と多くの生徒が喜んでいました。この体験をもとに、「持続可能なまちづくり」に向け、これから探究活動を行っていきます。とても良い体験になりました。



伊豆塾「3, 4年生ジオ教室」

～3, 4年生でも楽しく分かる火山噴火実験～

(文責 伊豆市学校教育課 指導主事 伊郷圭子)

伊豆市学校教育課では、美しい伊豆創造センター・ジオパーク推進部及び伊豆半島ジオガイド協会協力のもと、8月4日(木)に伊豆塾「3, 4年生ジオ教室」を実施しました。

「伊豆塾」は、夏季休業中を活用して、教室を離れた場で、知的好奇心を刺激し、子どもたちの隠れた才能を発掘する機会を与えること、自分の興味関心の高い分野で学ぶ喜びを体感することを目的に実施しています。「ジオ教室」は、自分たちの生まれ育った伊豆半島の成り立ちを少しでも理解してほしいという願いから、実施しています。

子どもたちは、火山噴火についての映像を見ながら説明を受けた後、炭酸飲料と菓子を使った噴火実験に取り組みました。(写真右)

炭酸飲料が勢いよく噴き出す様子に驚くとともに、「もっと勢いよく噴き出させるにはどうしたらいいのか、家でも実験してみたい。」という課題をもつ子どももいました。

次に行った、ボードに開けた穴から砂を噴出させて山ができていく過程を再現する実験(写真左)では、噴火のスピードによって積もり方が変わったり、ある程度の高さまでできると崩れたりすることに気づき、山の傾斜角は20度から40度になることを確かめました。

「マグマがどうやって通っているか、火山がどうやって噴火するのか分かった。」「砂のポンプ噴火がとても楽しかった。土地づくりの実験をしてみたい。」「火山には、いろいろなことがあったことが分かった。前より詳しいことが学べたし、楽しく勉強できた。」「5年生になっても参加して、もっともっといろいろなことを知りたい。」等の感想から、ジオや伊豆半島のことについての知識が深まり、関心が高まったことが分かりました。

講師の先生方の工夫により、小学校3, 4年生でも火山の成り立ちを理解することができる、楽しくて分かりやすいジオ教室を開催することができました。



ユネスコ審査員がジオ学習の様子を視察

10月12日(水)、西伊豆町・黄金崎で行われた西伊豆町立賀茂小学校のジオ学習を、伊豆半島ユネスコ世界ジオパークの再認定審査に訪れていた審査員2名が視察しました。

ジオガイドの土屋晴樹氏が、賀茂小学校6年生8名に向け、黄金崎から臨む富士山や駿河湾、眼前に広がる「馬ロック」などの海岸線について、実験を交えて授業を実施。最後はSDGsと絡め、「山と海は離れているようで繋がっている。海を守るためには、山の木々を守らないとならないんだよ」と紹介しました。

審査員は、授業の約30分間、通訳を介しながら土屋氏の話や子どもたちの様子を見学しました。



土屋晴樹氏が日本ジオパークネットワーク(JGN)表彰を受賞

日本ジオパークネットワーク(JGN)は、10月22日に開催された「第12回日本ジオパーク全国大会」において、伊豆半島認定ジオガイドの土屋晴樹氏を表彰しました。土屋氏は西伊豆町在住で、数学教諭としてご活躍の後、旧伊豆半島ジオパーク推進協議会教育部会の委員に就任。2021年度に教育部会が発行した「学校現場でのジオガイドの手引き」の執筆・編集をはじめ、2012年度より認定ジオガイドとして行ってきたジオ教育への貢献が評価され、今回の表彰となりました。



《新任のご挨拶》

今号から発行の担当となりました事務局の杉森と申します。よろしくお願いいたします。

記事内にあるユネスコ世界ジオパークの再認定審査に同行していましたが、審査員のお二人はノルウェーとマレーシアからそれぞれ来日。伊豆半島の多種多様な自然に興味を示すとともに、各地での教育活動に感心されていました。

ウィズコロナの段階に入り、学校で見合わせていたジオ出前授業も再開してきています。今後も各地の事例を紹介してまいりますのでよろしくお願いいたします。